

## テクニカル分析

# 確度の高い転換点 自分流に活用

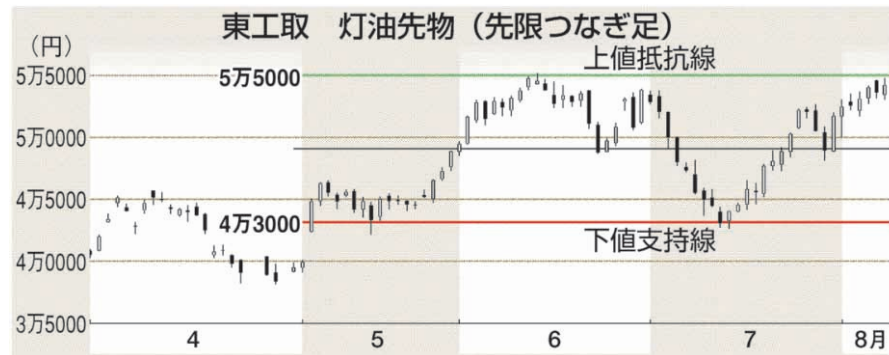
需給要因を解析して価格動向を予想するファンダメンタルズ分析の方法論は理解が容易です。しかし市場には、ファンダメンタルズを無視して相場に参加するトレーダーも少なくありません。

右の表は東京工業品取引所（東工取）の灯油先物価格の動きをチャート（グラフ）にまとめたものです。ある程度経験を積んだトレーダーなら、これを見て近い将来、売り注文を出そうと考えるかもしれない。ただし、それには現在上昇傾向にあり、1キロリットル＝5万4000円前後で推移している灯油価格がいったん5万5000円近辺まで値上がりし、その後と同水準を上回らないことを確認してから、という条件がつくはずだ。

### 価格は全情報を反映

チャートを読んで、売買行動を起こすトレーダーはチャート上で過去の値動きが織りなすパターンを見て、そこからいまの相場が高いのか安いのか、これからどのようなパターンを形成するかを考えて売買を仕掛けようと試みます。

その動機づけとなっているのが、ファンダメンタルズ分析では「すべて、の需給要因を的確に分析し売買に反映するこ



とは不可能だが、結果として形成された価格にはすべての需給要因が反映されており、それゆえ過去の価格パターンを分析することが有効であるとの考え方で

チャートの描画にはいくつかの手法がありますが、最もスタンダードなのは「ロウソク足」です。

用いるデータは4本値(始値・高値・安値・終値)で、横軸に時間、縦軸に価格を取ります。始値に比べて終値が高い時は「陽線」と呼び、赤または白抜きで表します。逆は「陰線」で青または黒で描きますが、これにより時間の経過と価格変化の方向・大きさの関係がわかる仕組みです(高値と安値は上下に細線で描画)。

時間の単位は1日、1週間、1カ月な

ど自由に設定可能です。先のチャートは1日単位で、「日足チャート」と呼びます。

### 下値支持線と上値抵抗線

チャートの中のパターンが「確実に」繰り返す保証はありません。しかし、多くのトレーダーが確度の高さを信じている基本パターンがあります。下値支持線(サポート)と上値抵抗線(レジスタンス)で、冒頭に述べた5万5000円の根拠もレジスタンスから判断しています。

それまでの下げ相場がある価格帯に達した時点から買い圧力が高まり、下落が止んだり、逆に上げ相場が逆転して元の値位置に戻ったりすることがあります。その転換点がサポートであり、レジスタ

## 新・商品先物入門

19

日本商品先物振興協会

小島 栄一

ンスです。

もう一度チャートに戻ります。一番下の赤線は4万3000円近辺に引かれていますが、5月初旬と中旬、7月中旬の3回、この水準で反発しています。典型的なサポートで、相場が下降線をたどっても、この水準を下回る可能性は低いと考えられるのです。逆に5万5000円を少し下回った緑のラインは6月中旬と7月初旬に下落の契機となっています。これがレジスタンスで、5万5000円を上回らないことを確認した後の売りが期待されるのです。

しかし、5万5000円の水準を突き抜けてしまったらどうでしょう。そのときは「買い」勢力が強いと判断しますが、その際には今までのレジスタンスはサポートに転換したと判断します。

チャートの分析法は古今東西、さまざまなテクニックが編み出されています。そうした分析法を研究し、自分なりに微調整を加えて相場に挑むのも大きな楽しみです。